

ECAN ヨリヨリ ニュースレター

NPO 法人 環境カウンセリング協会長崎
Environmental Counseling Association of Nagasaki (ECAN)

<http://www.npo-ecan.org/>

リレーインタビュー
中村 保高さん

新しい一歩を踏みだそう！

ECAN 活動報告

日本学生グローバルサミット 2010

チングば **ウォッチング！**

- NPO 法人 長崎海洋環境研究会
- 長崎県ネイチャーゲーム協会

会員紹介 旭 芳郎さん



いい人、いい自然、いい長崎

環境カウンセリング協会長崎は美しい長崎の創造に貢献したいと願っています

FREE!!
vol.

8

大切なのは、主役は行政ではなく住民自身だという自覚

中村保高さん

——これからの環境行政について期待されていることは？

従来の環境行政は、例えば、川が汚れたり魚が死んだりしたのを住民が実際に目にしていたので、進めやすかったと思います。身近な問題は分かりやすいし、理解も得やすいのですが、地球規模の問題となると、なかなか分かってもらいにくいですね。特に地球温暖化に関しては、実際に目に見える問題が起こってからは手遅れになる恐れがありますが、昨今の気候変動は症状がはっきりできてきているのではないかと心配しています。こういった大きな問題は、本質的なところでは単一の自治体に行き届くことには限りがあります。

それから、長崎県は県民所得が国内でも一番低いランクにありますので、行政に対する要求は、どうしても雇用や経済優先になり、環境は後回しになる傾向が強いですね。多数の理解を得るには、やはり経済の安定感を保った中で、加えて環境面へも十分に目を向けてもらうことが大切になってきます。ですから、環境行政従事者は環境のエキスパートとして専門性を追求するだけでなく、世の中の動き（経済や雇用）にも目を向けるべきだと思います。

10年先、50年先を見据えた政策を考える場合、多様な利害関係者がいますので、今の経済、市場、社会のニーズを理解していないと支持されなし、いい対策は打てません。実際の社会に目を向けてみると、例えば社会弱者の利便性・経済性と環境配慮のバランスをとったスモールシティの構想など社会のニーズにあった方策が結構あるのではないのでしょうか。このスモールシティ構想を初め、地産地消のシステム化、里地里山の復活など、いづれにしても、土本的なハードの都市計画だけではなく、環境的なソフトを組み入れた総合的な都市計画が必要になってくると思います。

後輩の皆さんには、ぜひ複眼的な視点を持ってほしいですね。

元長崎県環境部部長 長崎県すこやか長寿財団常務理事



——昨年、県庁を退職されるまでずっと県庁マ
ン二筋でこられたのですか？

いえ、大学卒業後、民間の会社に就職しました。そこを一年で退社して長崎に戻って県庁を受けました。それから 県庁に入るまでの一年間は、生協のトラックで移動販売をしたり電器店でアルバイトをしたりしていましたよ。長崎に戻ってきたのは、その頃父が体調を悪くして先行き長くないようなことを言われたというのも理由の一つだったのですが、帰ってきたら仮病じゃないかというくらい快復して、その後25年位長生きしてくれました（笑）。

《プロフィール》 中村保高（なかむらやすたか）
1951年長崎県長崎市生まれ
長崎西高等学校卒
九州大学理学部化学科卒
1976年県庁入庁
2010年県庁退庁
2010年～長崎県すこやか長寿財団常務理事就任

——昨年から就任されている「すこやか長寿財団」とは？

すこやか長寿財団では、高齢者の生きがいと健康作りのための各種事業（すこやか大学校※注1や、ねんりんびつ※注2など）や介護に関する知識・技術や用具の普及活動などを行っています。

高齢化でどの自治体でも医療費の負担が増える一方ですが、高齢者が趣味や特技を活かし、生きがいを持って外に出て生き活きと生活をしていけば、病院に行く時間ももつたいなくなるし、何より医療費が少なくなります。大上段にふりかぶって社会参加とかいわず、でも自然に楽しく参加できている状態が一番いいのではないかと思いますね。

すこやか大学校に関しては、今までは個人の資質の向上を目的とした講座が中心でしたが、市町の公民館などで似たような講座が増えてきたので、将来的には、キーマンになるような人材育成を目的としたものも考えていきたいですね。

——これから長崎の20年後はどうなると思われますか？

まず、人口は減って高齢化はますます進むと思います。うまい舵取りをしないと20年後はあつという間に来て、相変わらず低迷の長崎のままでしょうね。

うまい舵取りとは、先ほど言ったように、例えばコンバクトな街づくり、職住近接、地産地消、里地里山の復活など、地域やそこに住む人たちがしっかりとしたポリシーをもったプランニングをすることです。

大切なのは、主役は行政ではなく自分達だという自覚なのですが、長崎の人は、人間はいいのですが、そういった自覚や積極性にはやや欠ける気がしますね。住んでいる人間が

在職していた34年間はいろいろありましたが、基本、いい先輩、同僚、部下に恵まれてきました。いつも一家的な結束のもと仕事をしてきたし、自分にはそういう濃い人間関係が向いていたと感じますね。

——県庁の環境部の初代部長を務められたと伺っていますが？

県庁には昭和51年に入庁し、入ってすぐ配属されたのが環境部でした。その時の環境部は公害対策と自然保護が二本柱でしたが、法整備などが進み当面の役目を終えたことから、私が入って数年でなくなりました。20年ぶりに環境部が復活したというのが正確なところですね。それが平成18年で、その後21年度までの4年間部長を務めました。

——新しい環境部と以前の環境部との違いは？

環境部としてはまず四課（環境政策課、水環境対策課、自然環境課、廃棄物対策課）でスタートしました。

以前の環境部は公害や自然破壊問題への対処法的な業務を主に行う部署でしたが、これからの環境行政は将来に向かって計画的に行うべきだと思っていたので、新しい環境部発足一年後に「未来環境推進課」を設け五課とし、未来環境条例も整えました。この未来環境推進課は、将来の環境問題の行く末をよく見据えてポリシーを持つて対応するセクションです。

主役になって切り盛りする街であれば、所得はそれほど高くなくても住みよい暮らしがあるのではないのでしょうか。

県の環境部時代は、住民と行政の関与する比率を少なくとも5対5、できれば、6対4、7対3位を思い描いていました。そのためには、「人」を見つけ、つくらなければならなし、そういう人が出てきてくれるような施策が必要です。そのあるなしで20年後は大きく変わってきます。

こういう話を高齢者の方々にするとガンガンリアクションがあつて教わる人が多いです。なるほどというお話が聞けますし、言葉や経験の重みを感じます。街の活性化にこのパワーをぜひ活かしていきたいですね。

それに比べて若い人たちに接した際、気になったのが、迫力がないというか、自ら考えて議論する姿勢があまりみられなかったことです。若い人には特に、ほかから指図されるのではなく、将来は自分達がこんな街にするのだという気概を持つて欲しいものですね。

——まずは人づくりが大切ですね。そのためにはどうすればいいとお考えですか？

人づくり、街づくりには、楽しさが絶対必要だし、その楽しみを、少しずつでも手間暇かかっても作っていくこと、それが長い目で見ると成果につながっていくと思います。

楽しみというのは、個人的なことでもいいんですよ。それをまわりに増幅させていき、各々いろいろな芽をあつちこつちに出していけば大きなふくらみになって、やがては広がりを持ち素敵な県になっていく、そういう街づくりが理想ですね。

雇用・経済を優先させ、環境には関心なくやっているように、実は、環境や街づくりに貢献していることも案外多いのではないのでしょうか。そこを見つけて伸ばすのが行政の腕の見せ所ですし、実は、そういう気持ちを

込めて未来環境推進課を作りました。

部長を務めた4年間で環境部の皆さんとともに組織の目指す方向を明らかにしましたし、条例も整えましたが、これに魂を入れていくのは後続に託しました。後輩の皆さんには、きつい時もあるけど、笑顔と人生を楽しむことを忘れないでと話しています。それがないと、いい街づくりとか人づくりとかには繋がりませんからね。まずは楽しいと思える人生を率先しておくてほしいですね。

私も近い将来、職を離れて年金生活者になるでしょうが、何らかの形で楽しみながら社会に関わってほしいですね。

※注1 すこやか大学校・58歳以上を対象にした二年制の生涯教育の場。週一回、二時間の講座が40種類ほどある。

※注2 ねんりんびつ・年に一度、県下の60歳以上の高齢者が集い、スポーツ対戦、囲碁将棋大会、文化発表などを行う大会。全国大会の予選も兼ねている。

←趣味の海釣りで70cm、4kgのヒラメを仕留めた時の勇姿



インタビューを終えて

高校、大学時代のエピソードや現在の趣味のお話（オフレコが多すぎて記事になりません…）など、楽しそうに話していただいたもので、こちらもつい調子に乗って、気がつくとも三時間以上も経っていました。中村さんの豪快さや頼りがいがある親分気質に、最後には「番長」呼ばわりしていました（すみません）。すこやか長寿財団の番長としてこれからも更なるご活躍を期待しています。／聞き手 佐藤 恵

チンゲば ウォッチング!

環境問題に取り組むまちのちんぐたちの紹介

多良見町漁協の皆さんと肥料開発関係者（多良見町漁港にて）



NPO 法人長崎海洋環境研究会 連絡先

☑ kaiyo-kankyo@fuga.ocn.ne.jp

NPO 法人 長崎海洋環境研究会

（写真）おやじの堆肥：完熟有機堆肥（アナアオサ入り）

この度、環境カウンセリング協会事務所に同居してお世話になることになりました。

これまでは任意団体「長崎海洋環境研究会」として平成20年3月から活動を行って来ましたが、より有効な活動をするために法人化することにして申請してきましたところ1月4日付けで認可されました。

活動は海の環境を改善して豊かな海を守ることを中心としています。長崎県は北海道に続いて2番目に長い（北方領土を除けば一番長い）海岸線を持つ海洋県です。しかし、最近沿岸の海藻も少なくなってきた上に魚介類の漁獲量も大きく減少しており、漁業者にとっては生活問題になっています。大村湾は日本の88ヶ所ある閉鎖性海域の中でも閉鎖性が2番目に高く、外海とは針尾の瀬戸と早岐瀬戸の2ヶ所を通じての典型的な閉鎖性の海です。大村湾は長崎近海の魚の産卵場でもあり、長崎県にとっては宝の海です。

最近、特に南部海域は富栄養化により、やっかいもののアナアオサが繁殖し、それが腐蝕して悪臭を放つなど地域環境問題にもなっている上に沈殿してヘドロ化し、赤潮や青潮の原因にもなっています（回収しても廃棄処分費が高価なために回収されてこなかった）。そこでまず大村湾南部に着目して、海水の浄化を図るためにアナアオサを回収して肥料化したところ好評を得ています。更に、回収を多くするためにも用途を拡大する必要があります。現在、鶏の飼料素材として利用するための開発にも取り組んでいます（一石二鳥以上の効果）。

当面の活動としては、肥料の需要が多くなってきましたし、用途の開発も進んできましたが、最大のネックは回収作業です。人海戦術では年間100トン程度です（賦存量は約5千トン）。この作業は重労働で、作業者の高齢化や兼業漁家が多く専任できないこともあり、回収作業の省力化装置の開

発が急務です。

一方、漁協からはウニ殻、オニヒトデの処理の要求がありますので、これらを肥料にする開発も進めますし、カキ殻も素材に使用することも考えています。

用途開発としては鶏の飼料素材化に加えて家畜や養殖魚の飼料、「ふりかけ」などの食品、更に機能性食品までを視野に入れています。

NPO法人の活動としては南部底質改善事業としてアナアオサの回収によるヘドロ化の防止に加えて堆積しているヘドロの除去、河川、汽水域の浄化、海は山から“のキャッチコピー”として山に広葉樹の植林や有機栽培の促進、生物機能を利用した浄化、啓蒙活動としてセミナー、体験学習、出前学習、地域の活動グループの皆さんとの連携を考えています。

長崎県も魚礁の設置、アサリ漁場に覆土したり、漁場の活性化には漁業協同組合へ支援を行っていますので、私達は民間の力を中心とした産官学連携体制により長崎県を豊かな海にするために、まずは大村湾から活動を開始していきたいと思っています。

文／長崎海洋環境研究会 理事長 山中孝友



海底一面に繁茂するアナアオサ



バラ園（色合いも良く、幹がしっかり）



茄子栽培ハウスにて
（幹も葉もしっかりして収量も多い）



アナアオサの回収作業（大村空港手前の海域）

長崎県ネイチャーゲーム協会



「自然体験活動指導者研修会」を1月に開催しました。
長崎県ネイチャーゲーム協会の会員を中心に、保育士、大学生など約30名が参加しました。



昨年7月に長崎市民の森で開催した自主企画イベント
「森を歩こう～大杉谷へ冒険に出発だ！～」の様子

長崎県ネイチャーゲーム協会とはどんな団体ですか？

「地球と遊ぼう・自然と話そう」を合言葉に、四季折々の身近な自然のすばらしさをネイチャーゲームを使って紹介している団体です。

「ネイチャーゲーム」初めて聞きました。どんなゲームですか？

ネイチャーゲームは「自然を体感する遊びと学び」です。よ～く見て、耳をすまして、手足や肌で感じるネイチャーゲームを用いて自然とふれあうことによって、普段は気づかない様々な自然の恵みやたらしに気づくことができます。

例えば、暮れていく空の色にハッと息をのんだり、道端の可愛い花を見つけて嬉しくなったり、感動したことはありませんか？そして、その感動を誰かとわかちあいたいと思ったことはありませんか？このような気づきとわかちあいを通して、互いに様々な自然の姿を発見しあい、楽しみながら自然の豊かさを学ぶことができます。



約150あるゲームの中の一つ
「フィールドビンゴカード」

今後の活動予定はありますか？ネイチャーゲームはどこで出来ますか？

今年は、長崎市民の森で5回「自然体感活動会」（主催イベント）を実施する予定です。HPや広報ながさきを通じて告知します。

また、外部依頼により長崎県内の「小学校」「学童保育」「稲佐山」「水辺の森公園」などで活動しています。

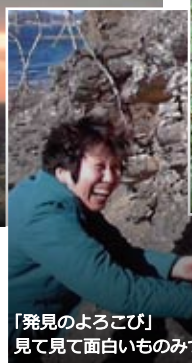
現在、ゲームは150余りもあり、参加者の年齢や、季節、場所、天候などに合わせてプログラムを作ります。自然の中では、天候が変化するのはよくあることです。晴れの日の屋外はもちろん、雨や雪を楽しむゲームや、室内で出来るゲームもあります。そのため、いつでも・どこでも・誰でもネイチャーゲームを楽しめます。

自然から感じたこと気づいたことをみんなでわかちあい、楽しみながら自然のすばらしさを体感しあう「自然体感活動」に参加してみませんか？問い合わせは下記まで、いつでもお待ちしております。

一緒に自然を案内する仲間を募集中です。「ネイチャーゲームリーダー養成講座」を3月に開催します。詳しくはHPをご覧ください。



「対馬の夕日」
大切なあの人と見たい景色



「発見のよろこび」
見て見て面白いものみつけたよ♪



「木の鼓動」
なにが聞こえてくるかな？



「名も知らぬ花」ひっそりと咲く花の美しさ

長崎県ネイチャーゲーム協会 連絡先
✉ mail@ng-n.jp HP(URL): <http://ng-n.jp/>

日本学生グローバルサミット 2010



清掃活動の様子

清掃前の浜辺 (Before)



清掃後、みんなとった集合写真 (After)



回収した医療廃棄物



グループワークの様子

昨年度に引き続き、独立行政法人環境再生保全機構の地球環境基金助成金と長崎県及び対馬市のご後援をいただき、漂流漂着ゴミ清掃「日本学生グローバルサミット2010」を2010年10月9日(土)～11日(月)の3日間で開催しました。

今回は対馬市の豊玉町志多浦の海岸を清掃の地として選定しました。長崎県内の大学生46名の他、韓国や中国から県内へ留学にきている大学生40名、福岡、熊本、遠くは遠く東京から参加してくれた県外の大学生10名、合計96名が活動に参加しました。

海岸にはペットボトル、空き缶、靴やサンダル、使い捨てライター、漁網、ロープ、発泡スチロール、医療廃棄物、流木などが多く流れ着いていました。特に注射器や注射針、点滴などの医療廃棄物は例年以上に多く見つかりました。しかも流木の下に隠れていたものが多くありました。

9月下旬に清掃地を下見していたものの、開催までの短い間でよりいっそう漂着ゴミが増え、清掃活動は終了時間を延長しなければならぬほどの困難を極めました。しかしながら、学生達から自発的な声が上がって納得のいく作業ができました。

回収したゴミはトントン袋にして103袋にもなりました。想像を超えるゴミの量や形態に始めは戸惑っていた学生達も次第に真剣な表情に変わり、漂流漂着ゴミ問題の深刻な現状を必死に受け止めながら作業を行っている様子でした。

清掃活動の後、県立対馬青年の家でグループワークを行い、活動を通して得たこと、感じたことを共有し合い、対策について活発に議論しました。また夜はバーベキューで楽しく交流を深めました。

リサイクルショップ地球村代表

旭 芳郎 さん

(南島原市)



環境カウンセラー (市民部門)
長崎県環境アドバイザー (地球環境)
NPO 法人島原ボランティア協議会理事長

雲仙普賢岳噴火災害から、今年6月で丸20年になります。私の環境へのターニングポイントにもなり、人生の大きな節目にもなりました。自分たちの郷里を災害から守ろうという活動で、災害ボランティア団体としての20年間。地元から県内、国内、海外と活動の輪を広げてきましたが、14年前に郷里の山(普賢岳)を見上げて森が消失したままになっていることに小さな衝撃を受けました。木を植えよう、森を再生させようというところで「雲仙百年の森づくりの会」を創設し、里山で木の種を拾い、種子を播き、苗を育て、これまでの13年間で3万本余りの植樹を行ってきました。これが次のターニングポイントとなり、環境のことを、森づくりを通して学ぶようになったのです。

県の温暖化防止活動推進員になって、独学で温暖化を中心にオゾン層破壊、砂漠化、食糧危機、森林破壊、人口爆発、エネルギー、水問題と、地球環境の事実を知ることとなりました。知ってしまった以上、執るべき行動は二つに――

つ。「知らなかったことにしよう」「自分ができることをやろう」のどちらかです。後者を選んだから人生も大きく変わりました。生き方、考え方、暮らし方が、全て環境中心のライフスタイルとなり、自分の生きる目的すら、哲学的に捉えるようになったのです。

最初は地球環境の問題提起を中心にやっていたのですが、今ではこの問題の根源は何なのかということから、対処療法では解決しないことを学びました。この原因は誰が作ったのか。人間の経済中心の生き方考え方の価値観という、社会システムが変わらなければ解決できないのではないかと。ということであれば、逆に人間の価値感さえ変われば、全ての問題は一瞬に変化できる可能性があるということですね！



イベントレポート

環境カウンセリング協会長崎／
エコアクション 21 地域事務局ながさきの活動報告

1 環境カウンセリング協会長崎 忘年会

平成 22 年 12 月 16 日(木)、毎年恒例の忘年会を長崎市銅座町にある「銀鍋」で開催しました。今年は、これまで ECAN の活動を支えてくださっている会員さんに加えて、新しく入会いただいた女性会員さんや、社会勉強を目的として大学生の皆さんも多数お集まりいただき、総勢 29 名の参加者によりとても華やかで賑やかな会となりました。



忘年会の様子 ①



理事長あいさつ



忘年会の様子 ②

2 長崎市主催『エコライフフェスタ』における 「ながさきエコネット」設立宣言とブース出展

平成 22 年 10 月 16 日(土)、水辺の森公園にて開催された『エコライフフェスタ』において、「誰でも」「いつでも」「簡単に」はじめようエコライフ! を合言葉に、長崎市の市民・事業所・団体・行政が一体となって楽しくエコをしようというコンセプトのもと「ながさきエコネット」設立宣言を行いました(長崎市委託「地球温暖化対策市民ネットワーク構築業務」)。また、市民活動ゾーンでは ECAN(イーキャン)の活動をパネル展示したブースを出展しました。ばってんリサイクル・食の地産地消・企業ゾーンなどがあり、参加者総数は 37000 人でした。今後、「ながさきエコネット」の発展が期待されます。



会場の様子



ECAN ブース出展



ながさきエコネット設立宣言

Information

エコアクション 21 自治体イニシャティブプログラム(佐世保市) 構築講座

日時: 平成 23 年 2 月 23 日(水) 13:30 ~ 17:00

場所: 佐世保市環境部

対象: 佐世保市内の一般企業・団体

お問い合わせ: エコアクション地域事務局ながさき TEL 095-893-5900

環境マイスター研修会(自動車販売部門)

日時: 平成 23 年 3 月 10 日(木) ~ 11 日(金) 10:00 ~ 17:00

場所: 長崎市立図書館 多目的ホール(長崎市興善町 1-1)

対象: 長崎県内の自動車販売業者

お問い合わせ: 環境カウンセリング協会長崎 TEL 095-818-3305

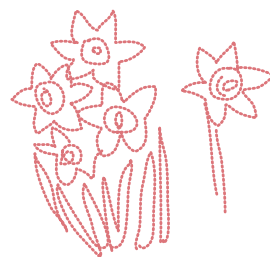
ワラナヤ学びのじかん「北イタリア・アルプスの山村に学ぶ未来」

日時: 平成 23 年 2 月 20 日(日) 15:00 ~ 17:00 要予約

場所: とりかぶと自然学校(大村市中岳町南川内 302)

講演会参加費: 1500 円

お問い合わせ: WARANAYA TEL 0957-50-2276



NEW FACE!

ECAN 新会員の紹介



安藤 道子 さん

三人の孫に残せるプレゼントは、健康に生きていく環境だと考えます。汚されていない自然、美味しい空気を残したく、皆様の行動力についていきたいと思ひます。



宮川 智子 さん

愛国心とは祖国の山や海や川を愛すること。今それすら失ったと悲しみを込めて語るイラン人をテレビで見たことを忘れられません。美しい山河を残す義務があるのです。



入江 由香里 さん

今まで環境のことに関心があったわけではありましたが、ecanにつながって新しい世界を見聞することができるのを楽しみにしています。



平澤 昭則 さん

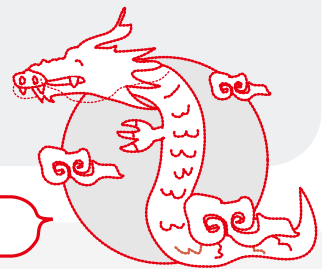
(有)平澤総合企画

我々を取り巻く地球環境は温暖化をはじめ危機的な状況にあります。子を持つ親世代の責任として、環境について問題意識・危機意識・当事者意識をもって取り組んでいく必要があると考えています。微力ながらも精一杯活動していきたいと思ひますので宜しくお願いします。



三次元環境紙芝居メンバー募集

イーキャン (ECAN) では、子どもたちへの環境教育として、紙芝居と人形劇が一体となった聴衆参加型の環境紙芝居を実施してきました。紙芝居づくりから上演まで、活動に楽しく参加してくれるメンバーを募集します。
ecan@npo-ecan.org までご連絡ください。



会員募集中！環境についてともに考え活動しませんか？

環境カウンセリング協会長崎は、中立な立場から市民、事業者、学術機関及び行政のパートナーシップの形成を図り、それぞれの環境への取組みを支援することを目的に設立されました。

循環型社会を根付かせ、人と自然が共に生きる心豊かな長崎を作るために、企業、団体、学術機関、行政そして市民としてそれぞれの立場からのご支援とご協力をお願い致します。

会員の種類	入会金	年会費
個人会員	1,000 円	3,000 円
学生会員	-	1,000 円
企業会員	-	10,000 円
団体会員	-	30,000 円
賛助会員	-	一口 (50,000 円) 以上

現在の会員数 (平成 23 年 2 月現在)

個人会員 73 名、企業会員 29 社、法人会員 3 団体、学生会員 7 名

お申し込み・問い合わせ先
環境カウンセリング協会長崎

TEL (095) 818-3305

E-Mail ecan@npo-ecan.org

— 理事

宮原和明 (長崎総合科学大学名誉教授)、菅洋一 (㈱エコシステム)、早瀬隆司 (長崎大学教授)、武政剛弘 (長崎大学教授)、川口孝範 (㈱T・N・C・エスコ)、石橋康弘 (長崎総合科学大学教授)、山田知代 (ばってんキャンドルナイト実行委員会)、空闲次男 (エコアクション 21 地域事務局ながさき)、安永憲一 (長崎県中小企業団体中央会)、新宮一広 (㈱環境衛生科学研究所)、重橋裕明 (長崎三共有機㈱)、糸山景大 (長崎大学名誉教授)、浅田要一郎 (長崎県環境部)、富工妙子 (ながさきホテルの会)、前田晴郎 (自転車再生委員会)



<編集後記>

新年最初のヨリヨリはいかがでしたか？今号のデザインは長崎のランタンフェスティバルを意識してみました。今年も会員の皆さんにとって有益な情報をできる限り多く配信していきたいと思ひますのでどうぞ宜しくお願いします。さて、1 月に ECAN 事務局の内装工事を行いました。部屋を 2 つに分け、1 つはこれまで同様の事務局スペースに、もう片方は 20 人程度の会議 & 講座スペースになりました。近くにお越しの際は、ぜひ新しい事務局を覗きにしてください。／塩竈 綾 (ECAN)

編集部 宮原和明 早瀬隆司 塩竈綾 (ECAN) 監修／山崎加代子 取材／佐藤恵 製作・デザイン／ECAN Makentosh

本誌のバックナンバーが ECAN ホームページより閲覧できるようになりました。→

ECAN Newsletter ヨリヨリ vol.8(2011 年 2 月)
■発行:NPO 法人 環境カウンセリング協会長崎
Environmental Counseling Association of Nagasaki(ECAN)
〒850-0036 長崎市五島町 3-3-206
TEL(095)818-3305 FAX(095)826-3693
業務時間: 平日 10:00~17:00 定休日: 土日祝日
http://www.npo-ecan.org/

■印刷 総合印刷 コマツ印刷

Copyright 2010 Environmental Counseling Association of Nagasaki All rights reserved
本誌の無断複写・複製・転載を禁じます



ECAN LOGO MARK

長崎県の形+葉っぱをイメージした緑
右手は「力」を意味する赤。(ガッツポーズ)
左手は美しい水を意味する水色
回りの円は、碧い地球



このニュースレターは再生紙を使用しています